

# 日露戦役従軍日誌にみる戦闘の様相

新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

明治37・8年の日露戦役において従軍し、歩兵第16聯隊第3大隊第9中隊第3小隊第3分隊所属であった、田中勝蔵氏の征露日誌を通し、新発田歩兵第16聯隊史に残る代表的な戦場の様子を紹介します。

出征当時北蒲原郡笹岡村に在住、明治37年2月5日の動員から、38年12月28日の除隊日までを綴ったもので、旧史料館立上げの際寄贈された日誌です。原文を忠実に転載したため読みづらい所も有りますがご了承ください。

## —プロローグ—

明治三十七年二月五日、動員下り野戦歩兵第十六聯隊に編入なり。

十二日午前十時、武装検査、二十三日まで演習とす。

同日午前八時、新発田屯営出発す。道中在村民歓迎に相成り新潟市上大川前通に宿泊す

二十四日午前九時、汽車にてこれより高崎市新町佐野屋林蔵様方に一週間滞在。

三月三日高崎市を午後八時出発新宿にて夕食、名古屋、京都、大阪、岡山を経て六日広島に着く。二十日まで演習とす。

三月二十一日午前九時、広島市を出発し同十一時孟買丸に乗込み夕食す。当乗込み兵士千五百人、その外砲兵合わせて二千余名なり馬は百頭位。

二十二日、日本諸島を経て一直線に壘を敷きたる如く。午後九時より大風雨にてこれほど大船も今やと思うほどなり。

二十四日午前三時、朝鮮大同江に着船す。四方皆山、白色を帯び寒気甚だしき。滞船すること三日にて上陸す。

二十六日、鎮南浦上陸す。

【第一回目】は、明治37年、初戦である鴨緑江を渡河し九連城を占領するまでの戦闘状況です。

四月二十二日、送問洞に午前十一時着、宿泊す。

二十三日、同所に滞在す。その夜二時頃、工兵、鴨緑江架橋材料輸送のため中隊本部に出勤す。午前八時三十分整列し、これより前哨中隊第二小隊に任ぜられ下士哨とす。敵は鴨緑江右岸にある。一部は舟に乗り右岸に上陸するや砲兵は時々射撃をす。砲兵陣地は四洞江に有り。我が下士哨は第一線なりとす。伍長以下八名とす。但し単哨とす。昼間は復哨とす。前面には敵の斥候出入す。

二十四日午前九時、第一小隊と交代す。二十九聯隊前哨線にコサック兵進撃するや第二十九聯隊の第一中隊に攻撃され、敵は退却す。

二十五日、午前九時に交代、第一小隊とす。午後より三十聯隊は、工兵架橋守備として七個中隊中洲に至る。当中隊は名無し村落の渡渉場に下士哨とす。夜間に至り砲、小銃の音盛んなり、前夜より下士斥候は度々出すものとす。

二十六日、早朝より龍岩浦砲台に我が軍艦砲撃するや敵は舟に乗り我が軍艦に砲撃す敵は退却す。一方上流には工兵守衛して、三十聯隊七個中隊に敵砲撃盛んなり。その中さかんに我等前哨張りえたり。

二十六日、引き上げ津里面村に宿泊す。

二十七日、滞在す。その日は敵の砲撃盛んなり。

二十八日、右（二十七日）と同じ。

二十九日晴天、朝九時三十分整列し同十時大隊の集合終りて、義洲に向って出発す。午後三時、泉峴に着し一泊したれども人家二十四軒にて、大隊の宿営なれば各中隊共暮営同様なり。午後六時命令に接し、明日午前六時三十分整列にて、明後日より戦闘を開く、食物は明日の夕食まで携行すること。

三十日晴天、朝六時三十分泉峴を發し杜山洞に向って行軍す。鴨緑江より約二千メートルなり。南端の麓に聯隊の集合終りて、各隊とも軽装す。午後二時三十分武装検査終りて休憩す。この日午前十時頃より非常に砲声を聞く。食事は各人四食、精米六合携行す。

午後二時、師団の集合終りて攻撃準備す。午後六時三十分、杜山洞を發し鴨緑江を渡りつつ九連城に向って、攻撃目的を持って師団集合終りて露營す。

五月一日晴天、鴨緑江川原に第三大隊集合し、午前五時三十分、曉に我が砲兵攻撃を始め、その音は大雷よりも甚だしき、大山も崩れる如し、同七時三十分、我が軍散開して第一・第二大隊は第一線、第三大隊は掩護隊、同七時頃鴨緑江の支流を渡る。

川幅十メートル深さ約四・五尺の河を徒渉し、散開す時に川中に流るる者もあり。又敵弾の為死するもあり、実にその有様は筆紙に書きし難し。同九時頃鴨緑江の右岸の高地並びに九連城を占領し大勝利、万歳の勝ちどきを揚げたり。敵は我が一声に驚き、丁度嵐に降る花の如く鳳凰城に向って退却す。我が軍は逃げるを追撃す、敵の銃砲弾雨霰の如し、然れども我が軍更に恐れる一色なく、万歳の声天地に響き渡り、一時占領せし城に昼食す。

午後一時三十分我が第十五旅団は左翼の敵を、追撃するを命ぜられし。

「命令 不利を得たる敵は、鳳凰城に向って退却せり、我が軍是を追撃す。第十二師団・近衛師団・第二師団の順次に進み、第十五旅団は前衛、第十六聯隊第三大隊は前兵、第十二中隊は尖兵」となる。八洞江に向って前進、我が第三小隊は砂家鎮より約一里西北方山上において、独立下士哨となり八洞江方面を警戒す。近衛師団は前哨に任せられ、第二師団は砂家鎮に宿営す。その町は戸数千五百戸、前衛司令官第十五旅団長岡崎閣下、前兵長第十六聯隊谷山隆英殿にて。

五月七日雨天、朝五時三十分第三小隊は、小哨引き上げ砂家鎮より約二千メートル南方の村落ある第九中隊本部に集合したり。

以上が鴨緑江渡河から九連城占領までの日誌です。

後日現地の命令報告によると九連城戦闘において、クロパトキンが露国に報告したるは死傷者は、2000名とある。